

帯広駐屯地は道内第 2 位の広さを誇る駐屯地である。駐屯地内に、小隊規模ならば十分な訓練が出来る訓練場を有している。通称「帯訓」と称されるこの訓練場にイヌイットの簡易住宅である「イグル」が出現した。アイスクリートで製作した「かまくら」みたいなものといえ解って貰えようか。(為念：エスキモーというのは、インディアン語で生肉を食する人という意味であり、差別用語であり、彼等は自らをイヌイット称しており、この言葉を使うのが正しい。)



(特科連隊作成のイグル：撮影：鬼塚 1 曹)

実は、特科連隊の各大隊が、連隊指命冬季基本・基礎研究会の一環として製作・構築したものである。30cm 四方×60cm 程度の氷のブロック多数を積み上げて作る。伏せたお椀状にブロックを積んで強度を増しているのだが、積み上げが工夫を要するようだ。イグルは保温・防風の効果が大きであるが、構築には相当の隊力を要するが、それよりも技術力が必要だ。アイスブロックは、箱型枠に砂利、砂、水を混ぜ合わせて段階的に作成する。中心部までしっかり凍らせることが所望の強度を維持する為に必要だ。

アイスクリート製のものが最も強度が高いが、アイスクリートに雪を混ぜたスノークリート、雪に水を注いで製作するスノーアイスもある。状況に応じ使い分けることになるろう。

雪原に大きな構築物を製作すると敵に発見もされ、暴露面も多く、不利である。更には、アイスクリート等の製作には時間も隊力も要する。

左はさりながら、凍土を掘り返して陣地を作るのも大変だ。某連隊が爆破によって凍土を掘開して陣地を構築したが、色々と苦労したようだ。

凍土の深さも日の当たり易い場所と日陰のところと雪の深い所と風強く雪が飛ばされる場所等々で異なっているようだ。言われてみると成る程と頷けるのであるが、つい同じ深さだろうと思ってしまう。

積雪寒冷地においては、天幕等を利用出来ない場合もあり、積雪中に穴等を掘ってその上に手軽な資材で屋根を掛けた雪穴や或いは、深い雪のところでは、雪洞を作ることもある。雪洞作成に適する場所は、堅い積雪斜面であるが、このような場所は雪崩も発生し易いので避けねばならぬ。換気の為にストックを活用する等、入り口は小さく作ると共に防風の為の雪壁を作ったりの着意が必要だ。かつて、倶知安に勤務した折、雪山で行方不明になった人が雪洞を掘って救出を待っていたという事例があった。矢張り、サバイバルの技術を自得出来れば問題ないのだが、そうもいかないのが、最小限の事は教えておくべきなのだろう。

特科連隊はイグルだけ作った訳ではない。火砲の陣地や指揮所の構築要領等を色々と検討している。検証実験をも合わせ実施しつつ。この様な地道な積み上げが、何れ功を奏するものだ。

積雪寒冷の地においては、防衛作戦に従事する我等のみならず、一般生活の中において

も、相応の知識を有していなければならない。雪や寒冷を味方にするのは容易ではないが、少なくともこれらを克服する為の最小限の知識が必須だろう。

それらを幾つかを列記しよう。(我等の同僚の長年の経験に基づく知恵も収集した。)

- 敵を知れ！
- ① 冬山の天候は千変万化。決して無理をしない。天気予報に注意。特に台湾坊主。
気象俚諺
 - a 雪は地形を変え、風は道を消す。
 - b 風と坊主は10時から(酔っぱらいと空っ風は午後から出る。)
 - c 降雪後には、風が吹く。 d 山が晴れると、平地に風が吹く。
 - e 風は尾根に直角に、沢に並行に走る。
 - f 雪を踏んでキシキシ鳴るときは、 -10°C 以下、息をして鼻毛がしばれたら -15°C 以下。
 - g 冬の空、曇れば次の日暖かく、その日晴れたら次の日寒い。
 - h 無風で高く星輝くと冷え込んでくる。 i 夕焼けの翌日天気がよい。
- ② 風があると体感温度は急激に低下する。風速1mで、体感温度は約 3°C 低下する。(風速1m/sec増加すると 0°C 付近では約 3°C 、 -15°C 付近では約 5°C 低下する。)
- 行動原則
- ③ 装具等に雪を付けるな、水を吸って重くなる。
- ④ 行進は、休まずゆっくりと。
(長休止・長距離行進より、小休止・短距離行進の繰り返し。)
- 服装等
- ⑤ 汗等で濡れた下着等は機会あるごとに取り替えるべし。労を惜しむべからず。
- ⑥ 下着は吸湿性の高いもの、下着は厚地の物より、薄地の物を数枚重ねて着る。
肌着は純毛、外被はナイロン等(雪付着防止)
- ⑦ 汗かき症人間は凍傷になりやすい。こまめな確認・指導必要
- ⑧ 凍傷予防：唐辛子を手袋、靴下に入れるとほかほかして保温効果あり
サロメチールを塗っている者もあり。
- ⑨ トックリセーター等は、耐風雪・保温に最適(寒暖時の着脱を適切に。)
- ⑩ 新聞紙を下着の間に挟むと暖かい。
- 食事
- ⑪ 基礎代謝熱量が増加するので、食事は熱量の高い、暖かいものを。
- ⑫ 水への配慮：水筒、水缶は満水にするな、八分目にする(凍らせないため)。
砂糖や塩を入れると効果的である。(食塩0.5%、砂糖4~5%)
- ⑬ 冬季における食料：凍らない食物、長期行動においてはパン類等が最適。
- ⑭ 宿営間・就寝する前に、多量の飲酒は厳禁。アルコールが醒める時、体温が低下し凍死する要因になるほか、非常に寒い。寒さしのぎに酒飲むな、寒けりゃ動け。
- ⑮ 雪は食べるな。のど乾くし、腹痛起こす。
- 携行品
- ⑯ 予備手段を周到に準備。変わりやすいので、あらゆる事態を想定して対応準備
 - a 着替え、履き替えは予備を持つ。 b 着替え等は、1枚ずつビニール袋へ入れて携行。

- c マッチ、ライター、コンパス、カイロ、サングラス（ゴーグル）、食料、水は必需品
- ⑰ 個人が採暖するために最低限、固形燃料を携行すること。いざとなった場合、効果的
 - 宿営・露営(ビバーク)
 - ⑱ 雪庇（せっぴ）や雪崩のおき易い地域は避ける。
 - ⑲ テントの展張位置：風を考慮し努めて凹地に位置させ、風の当たる面積を少なくする。
風下に入り口を。
 - ⑳ 午後3時ビバーク準備の開始時期
 - 就寝時
 - 21 寝袋の下にアルミ箔の敷物をひくべし。ビニールだけでは寒気を感じるアルミ箔は寒気を遮断し、保温効果大。
 - 22 一酸化炭素中毒は死に至る。換気に十分に注意。
 - 凍傷・外傷
 - 23 凍傷経験者の把握：一度凍傷になった者は凍傷になりやすいと聞いたことがある。
特に、凍傷になった部位は凍傷になりやすい。
 - 24 骨折等の場合には収容に時間がかかる場合には靴を脱がせない、受傷部位は長時間外気に晒さない。
 - 25 曇天でも雪盲になることがある。ゴーグルの他、透かして見える布等で目を覆うのも一案
 - 雪崩対処
 - 26 雪崩に巻き込まれたら、泳ぐと良い。駄目な場合には空間を作って窒息防止に努めること。雪中では上下の位置関係が解らなくなるので、地面の方向に雪を除雪する傾向があると言う。そのため、糸におもりをつけ上下を確認し除雪する方がよいとか。
 - 不測事態対処
 - 27： 視界不良、現在地不明、道に迷ったら、原則はその場を動かないで体力温存。
リングワンデリングに陥る、疲労凍死に至る場合あり。
迷ったときは、元に戻るかその場に止まって雪穴を掘れ。吹雪いたときには、その場を動くな。

(参考：各種訓練資料、幕僚幹事及び庶務幹部提供資料 etc)